

「情報セキュリティ白書 2013」を発行

～利用者への理解促進に配慮した具体的な事例、攻撃の手口、対策等について解説～

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：藤江 一正）は、国内外の注目すべき情報セキュリティインシデントや、インターネットにつながる機器の利用拡大による新たな脅威など、広く情報セキュリティに関する出来事や状況をまとめ、「情報セキュリティ白書 2013」として、2013年9月2日から販売を開始しました。

URL : <http://www.ipa.go.jp/security/publications/hakusyo/2013.html>

「情報セキュリティ白書」は、IPA が毎年発行する情報セキュリティに関する報告書です。企業のシステム開発者・運用者を対象に情報セキュリティの現状や、今後の対策のために役立つ情報を提供するとともに、パソコンやスマートフォン等の情報機器を使用する一般の利用者に対しても情報セキュリティの概観や身近な話題をわかりやすく提供することを目指しています。

2012年度は、サイバー空間でのデモ活動を目的とした DDoS 攻撃⁽¹⁾により、米国の金融機関のオンラインサービスや日本の政府機関・著作権団体の Web サイトがサービス停止に陥るといった被害が発生しました。また、スマートフォン等の利用拡大とともにそれを標的とする不正アプリが 2011年度の数千個/月から 2012年度は数万から数十万個/月⁽²⁾へと増加し、ウイルスを用いた新たな手口によるインターネットバンキングでの不正送金被害が拡大する等、一般のインターネット利用者に対する脅威も高まっています。

これらの状況を考慮し「情報セキュリティ白書 2013」では、情報セキュリティインシデントの具体的な事例や攻撃の手口、対策について解説しています。また、国内外で進められている情報セキュリティ政策や法整備の状況等、情報セキュリティに関する広範なテーマを取り上げています。

「情報セキュリティ白書 2013」の構成は、まず序章にて 2012年度の1年間に情報セキュリティ分野における注目すべき 10項目の出来事を概説しています。次に、国内外における情報セキュリティインシデントの状況、具体的な事例と攻撃の手口、脆弱性の動向や企業・政府等における情報セキュリティ対策の状況を述べています。続いて、国内外における情報セキュリティ政策や関連法の整備状況、情報セキュリティ人材の現状、国際標準化の動向、情報セキュリティの普及活動についても解説しています。加えて、スマートデバイスや制御システム、自動車、クラウドコンピューティングの情報セキュリティの動向や、内部不正防止への対策等を注目するテーマとして解説しています。

なお、本白書は、2013年3月12日に公開した「2013年版 10大脅威 身近に忍び寄る脅威⁽³⁾」も収録しています。

⁽¹⁾ 分散型サービス妨害攻撃。特定のサービスに対して、大量のコンピュータから同時に大量のアクセスを行うことで、そのサービスを妨害する攻撃のこと。

⁽²⁾ 2012年度インターネット脅威年間レポート（トレンドマイクロ株式会社）
http://jp.trendmicro.com/jp/threat/security_news/monthlyreport/article/20130107041500.html

⁽³⁾ 「2013年版 10大脅威 身近に忍び寄る脅威」を公開 <http://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2013.html>

「情報セキュリティ白書 2013」は、Amazon (<http://www.amazon.co.jp>) と全国官報販売協同組合 (<http://www.gov-book.or.jp>)、および IPA でご購入いただけます。



発行：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

ISBN 978-4-905318-22-4

定価：本体 1,429 円（税別）

ソフトカバー／A4 版／228 頁

■本件に関するお問い合わせ先

IPA 技術本部 セキュリティセンター 小松／花村

Tel: 03-5978-7530 Fax: 03-5978-7546 E-mail: isec-wp-book@ipa.go.jp

■報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部 広報グループ 横山／白石

Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp